

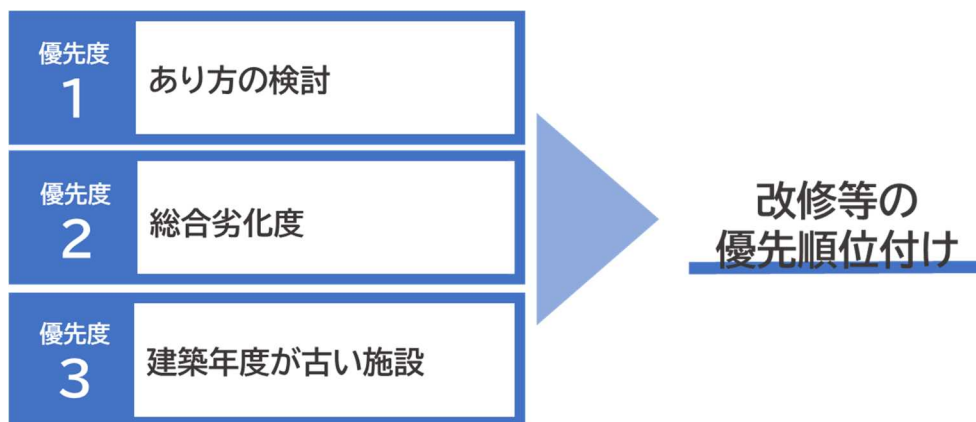
第6章 障害者福祉施設の実施計画

6-1 改修等の優先順位付けと実施計画

(1) 実施時期の考え方

「施設の状態等」や「施設整備の基本的な考え方」、「施設整備の水準等」を踏まえ、障害者福祉施設の改修等に関する優先順位付けの考え方を示します。

優先順位付けについては、下図のとおり、あり方の検討の結果や総合劣化度を基に行うものとします。



(2) 実施スケジュール

直近10年間の整備スケジュール

(単位:円)

年度	2024(R06)		2025(R07)		2026(R08)		2027(R09)		2028(R10)		2029(R11)		2030(R12)		2031(R13)		2032(R14)		2033(R15)		
	施設名	事業費	施設名	事業費	施設名	事業費	施設名	事業費	施設名	事業費	施設名	事業費	施設名	事業費	施設名	事業費	施設名	事業費	施設名	事業費	
施設整備費	新增築事業																				
	改築事業																				
	耐震化事業																				
	長寿命化改修																				
	大規模改修(老朽化)																				
	中規模改修(老朽化)																				
	防災関連事業												ふじしろ火災 報知器入替	993,170							
	トイレ整備																				
	空調設備					あけぼの 空調改修工事 (設計)	1,800,000	あけぼの 空調改修工事	42,000,000												
	バリアフリー・ ユニバーサル デザイン																				
	脱炭素化																				
部位修繕									あけぼの 受変電設備(設 計)	600,000	あけぼの 受変電設備	10,000,000									
その他の施設整備費																					
維持修繕費		111,411,000		111,411,000		111,411,000		111,411,000		111,411,000		111,411,000		111,411,000		111,411,000		111,411,000		111,411,000	
光熱水費・委託費		13,600,000		13,600,000		13,600,000		13,600,000		13,600,000		13,600,000		13,600,000		13,600,000		13,600,000		13,600,000	
合計		125,011,000		125,011,000		126,811,000		167,011,000		125,611,000		135,011,000		126,004,170		125,011,000		125,011,000		125,011,000	

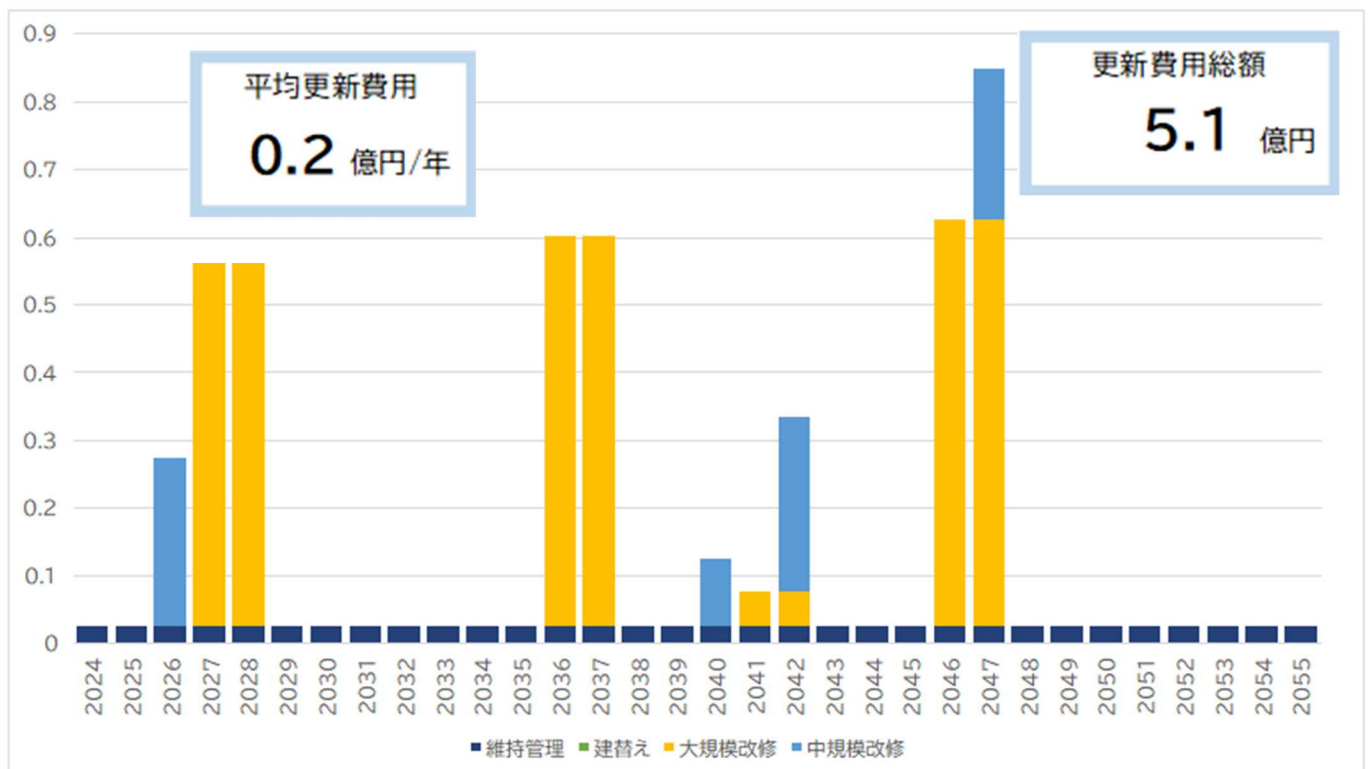
(3) 優先順位一覧表

■:築50年以上 □:築30年以上

優先順位	施設名	建物名	棟番号	構造	階数	延床面積(m ²)	建築年度	保全種別	優先度 1 あり方の検討			優先度 2	優先度 3
									種別	実施年度	結果	総合劣化度	築年数
1	障害者福祉センターつつじ園	障害者福祉センターつつじ園(旧館)	6012	RC	2	1,070	1996	予防	①	2031	未実施	61	28
2	障害者福祉センターつつじ園	障害者福祉センターつつじ園(新館)	6013	S	2	1,112	2006	予防	①	2041	未実施	41	18
3	障害者福祉センターあけぼの	障害者福祉センターあけぼの	6007	RC	1	1,353	1980	予防	①	2022	存続	55	44
4	障害者福祉センターふじしろ	障害者福祉センターふじしろ	6003	RC	2	992	1987	予防	①	2022	存続	62	37
6	子ども発達センター	子ども発達センター	8005	RC	1	2,306	1982	予防	①	2022	存続	61	42

(4) 更新までの対策費用(概算)

障害者福祉施設を、長寿命化対策を行い維持管理していく場合、従来通り維持管理していく場合に比べ、建替えや大規模改修を含め今後30年間で平均0.3億円、総額11億円のコストが削減できます。



6-2 改修等のコストの見通し ～維持・更新の課題と今後の方針～

生産年齢人口の減少に伴い、市税の減少が見込まれ、歳出に関しては高齢人口増加に伴う扶助費の増加が見込まれます。上記のように、今後厳しい財政状況が続くことから、施設の維持管理に充当できる財源が縮小していくことが予想されます。可能な限り必要経費を抑制していくため、費用対効果を十分分析し、維持管理費等の適正化を図っていきます。また、将来を見据え、必要に応じて基金への積み立てを計画的に行い、施設の改修や建替えに活用できるよう検討します。